

こだま俳壇（十二月句会）

寒見舞われ息災と大書して  
傘の柄に深き傷あり初時雨  
冬の田の畦道長し筑波山  
目白きてつがいのでつづく残り柿  
ベビーカーのややのあんよや冬日和  
大山が控え相模の冬田かな  
空つ風仔犬のように鳴いている  
冬田駆け一時間目に遅れまじ  
冬日和布団干す手に力入れ  
静寂の中心にある冬田かな  
冬田にて収穫のがす柿幾つ  
冬温し白墨書きのアラカルト  
霜深し母と妃殿下同い年  
冬日和孫と手つなぎ歩くかな  
一人行く落葉の道の楽しさよ  
冬田にてぽつんとたてり案山子かな  
絵手紙に元気と二文字小春かな  
冬日和あぐらの中に猫眠り

角田英昭  
柳瀬節子  
友井眞言  
島田多嘉子  
中野みどり  
大塚敏高  
白井保次郎  
瀧澤正行  
中村桂子  
並木まり子  
後藤貞夫  
坂守  
高橋和江  
常世田芳子  
松尾佐知子  
小室豊子  
田中一男  
講師 太田土男先生